

第21回「書の甲子園」国際高校生選抜書展

主催 (財)毎日書道会・毎日新聞社
後援 外務省・文部科学省・大阪府
大阪府教育委員会・大阪市
大阪市教育委員会・毎日放送ほか

宮前さんが大賞受賞！！

団体の部でも中国地区準優勝

全国最大規模と最高レベルを誇る高校生の書道展「第21回国際高校生選抜書展」(海外参加国約20カ国・全国参加校約970校)の第一次審査通過作品約17,000点が全国審査されました。本校は昨年の全国準優勝・中国地区優勝に続き、中国地区準優勝(8年連続団体賞受賞)を達成しました。

また個人の部では大賞(全国第2位)・入選者多数という好成績でした。審査結果は下記のとおりです。この大会結果は毎日新聞に特集掲載されました。

記

団体の部 中国地区準優勝 広島県立尾道北高等学校

個人の部

大	賞	宮前 怜実 (2年)
入	選	大亀 笑子 (3年)
入	選	甲山 三友紀 (3年)
入	選	唐崎 幹子 (3年)
入	選	胡麻本 彩音 (3年)
入	選	松本 真由子 (2年)
入	選	片田 圭恵 (2年)
入	選	中光 晴香 (2年)
入	選	毛利 玲美 (1年)
入	選	金子 桃子 (1年)



宮前 怜実 (大漁)

(受賞作は現在出品中であり、写真は同傾向のものです。)

展 覧 会

会 期 平成25年1月29日～2月3日

会 場 大阪市立美術館

授賞式 平成25年2月3日午後1時 (毎日新聞大阪本社オーバルホール)

北道2年(尾高) 大賞に宮前さん

格闘の末の会心作「全てをぶつけた」



個人の部で大賞を受賞した宮前怜実さん
—尾道北高校で

書の甲子園

「書の甲子園」として知られる「第21回国際高校生選抜書展」(毎日新聞社、毎日書道会主催)の審査結果が27日発表され、個人の部で尾道北高2年の宮前怜実さん(17)が大賞に、日影館高3年の湯浅祐香さん(18)が準大賞に選ばれた。また、団体の部では、尾道北高が中国地区の準優勝に、熊野高と美鈴が丘高が地区優秀賞に決まった。

「全てを紙にぶつけ論と話し合い、ひたすら書く日々。受賞という夢がかなってうれしい」。中国・周の時代の青銅器に刻まれた文字・金文の「魚」をデフォルメした会心作を前に笑顔を見せた。

「形が面白い」と、昨年来、この文字と格闘してきた。当初は納得する線が出せず、書道部顧問の藤田開三教

「全てを紙にぶつけ論と話し合い、ひたすら書く日々。受賞作大漁」には、1カ月をかけた。網にかかった4匹の魚が逃げようと躍動する様を墨のかすれで表現。クシヤクの羽の筆を使い、網は発泡スチロールで型押しして工夫を凝らした。魚の目を入れるときは、立ち上がりで書きました」と、魂を込めた瞬間を振り返った。「これから書道にますますの喜びを忘れず、こ

11月28日付毎日新聞記事より

間を振り返った。「これから書道にますますの喜びを忘れず、こ

準優勝を喜ぶ書道部員たち

団結力と集中力で



団体で中国地区準優勝となった尾道北高書道部—尾道北高校で

部員は3年生も含め28人。学業重視の校風の中、部活動の時間をどう捻出するかは個人に任せている。「全員がそろうことはほとんどない」と顧問の藤田開三教諭。市や町のイベントで揮毫を依頼される高みへ飛翔を誓った。

【書道舞】

11月28日付毎日新聞記事より

(掲載承認済み)